

平成30年生駒市教育委員会第2回定例会会議録

1 日 時 平成30年2月26日(月) 午前9時36分～午前10時56分

2 場 所 生駒市役所 401・402会議室

3 審査事項

- (1) 議案第3号 平成30年度予算編成について
- (2) 議案第4号 平成30年生駒市議会第1回(3月)定例会提出議案の意見について
- (3) 議案第1号 平成30年度生駒市教育大綱アクションプランの策定について
- (4) 議案第2号 平成30年度生駒市学校教育の目標について

4 出席委員

教育長	中 田 好 昭			
委 員	寺 田 詩 子	委 員	神 澤	創
委 員	浦 林 直 子	委 員	坪 井 美 佐	
委 員	レイノルズあい	委 員	西 井 久 之	

5 欠席委員

委 員 (教育長職務代理者) 飯 島 敏 文

6 事務局職員出席者

教育振興部長	峯 島 妙	生涯学習部長	西 野 敦
教育振興部次長	真 銅 宏	教育総務課長	辻 中 伸 弘
教育指導課長	吉 川 祐 一	学校給食センター所長	奥 田 茂
こども課長	前 川 好 啓	こども課指導主事	樋 田 良 恵
こども課指導主事	上 田 直 美	子育て支援総合センター所長	辻 本 多佳子
生涯学習課長	清 水 紀 子	図書館長	向 田 真理子
スポーツ振興課長	吉 岡 秀 高	教育総務課課長補佐	山 本 英 樹
教育指導課課長補佐	城 野 聖 一	こども課課長補佐	松 田 悟
生涯学習課課長補佐	梅 谷 信 行	スポーツ振興課課長補佐	西 政 仁
教育総務課 (書記)	牧 井 望	教育総務課 (書記)	鬼 頭 永 実

6 傍聴者 0名

午前9時36分 開会

○開会宣告

○日程第1 前々回及び前回会議録の承認

○日程第2 会期・会議時間の決定

○日程第3 諸般報告

- ・3月の行事予定について、辻中教育総務課長、清水生涯学習課長から報告
(質疑)なし

○日程第4 議案第3号 平成30年度予算編成について

- ・平成30年度予算編成について、峯島教育振興部長、西野生涯学習部長から説明
<参照：議案書p1、別冊1、資料1、2>

(質疑)

西井委員：資料1の6ページ、生涯学習部の寿大学の予算が300万以上の減額となっているが、何か理由はあるのか。

清水課長：今回の資料は一般会計のみの記載となっている。来年度からは、介護予防の観点から、介護保険特別会計で約200万円を計上している。特別会計で計上している分については、国の補助ではほぼすべて賄える。来年度から、一般会計と特別会計の両方で計上しているため、一見大幅減額かのようなようであるが、寿大学についてはほぼ同額である。

レックス委員：資料1の5ページ、幼稚園管理運営費が29年度に比べて一割ほど減っているが、理由を伺いたい。

前川課長：管理運営費については、高山幼稚園の閉園に伴うものである。

寺田委員：管理運営費について、中学校はエアコンの設計をしていくようだが、幼稚園のエアコン設置は小学校の後と考えるとよいのか。

真銅次長：エアコンの設置については、様々な観点からの精査が必要であるので、現在検討中である。小学校の後とは明言できない。

寺田委員：幼稚園の子どもたちは常に動き回っており、また、自分の体の異変に気付きにくい。できるだけ早く進めていただきたい。

中田教育長：保育ニーズが増える中で、こども園化も視野に入れながら幼稚園の施設整備についての検討が必要であり、エアコン整備についても計画的に行っていないなければならないと思っている。そのために、今般設置を予定している学校教育のあり方検討委員会で議論していただきたいと考えている。検討委員会では、保育ニーズへの対応として、夏休みも預かり保育を実施していくのかなど、預かり保育の実施に当たっての施設整備の

計画も立てていくことが必要である。幼稚園へのエアコン設置は、その計画の進捗との兼ね合いもあり、直ちには決められない。

坪井委員：資料1の5ページ、中学校の部活動支援事業について、峯島部長からの説明で専門的な指導・援助と仰っていたが、どのように運用されているのか。

吉川課長：各校に本事業について周知し、専門的な指導者がいない部活動について、学校で地域の方などで専門的スキルを持った方を候補者として決めていただき、学校から申請してもらおう。教育委員会はそれを許可するといった形になる。

レイルズ委員：資料1の2ページ、学童保育について、就学前の保育ニーズも高まるにつれて学童保育のニーズも高まっているだろう。他校についても拡大などの計画はあるのか。

前川課長：29年度に生駒小学校、桜ヶ丘小学校、あすか野小学校の3校の学童を分割し、30年度で壱分小学校の1校の学童を分割する。この4校で現段階での対応は完了し、拡大の見込みはない。

レイルズ委員：今後の推移にあわせてニーズが高まる可能性が高いので、その際はまた検討をお願いしたい。

中田教育長：子ども・若者総合相談窓口の実績報告を受けたい。

清水課長：1月は4日間の開所で相談件数が20件あった。最も多い日で1日8件の相談を受けた。土曜日には臨床心理士を配置しているので、件数も多くなっている。内容としては、20～30代の就労に関する相談がメインであるが、高校の不登校についての相談が増えている。以前は若者サポートステーションで土曜日のみ相談を受けていたが、常設となり1日当たりの相談件数も比較的多い状態で推移している。

中田教育長：相談件数が多いことは決していいことではないが、教育相談室との連携によって、いじめ対策などに貢献しており、土日も空いていることで、利用しやすくなったと聞いている。引き続きお願いしたい。

審議結果 【原案のとおり可決】

○日程第5 議案第4号 平成30年生駒市議会第1回（3月）定例会提出議案の意見について

・平成30年生駒市議会第1回（3月）定例会提出議案の意見について、辻中教育総務課長、前川こども課長、清水生涯学習課長から説明

<参照：議案書p2、別冊2、資料3>

（質疑）

中田教育長：追加説明をさせていただく。繰越明許とは、今年度実施予定であったが何らかの事情で実施できなかった事業を、来年度に繰り越して実施する

ことをいう。また、新規に条例制定予定の学校教育のあり方検討委員会については、この後開催する総合教育会議でも資料を提示し、市長とも協議していただく予定をしている。学識経験者、地域の方、保護者、学校関係者等で構成される予定である。教育委員会の諮問機関であり、必要に応じて教育委員会から報告を求めることができるので、その報告について、教育委員会で議論することもできるだろう。本検討委員会の答申は政策に反映させるものであり、影響力が強いので、条例を設置する。もう一点については、国の法律の一部改正である。条文整理であり、実質的に変更はない。

審議結果 【原案のとおり可決】

○日程第6 議案第1号 平成30年度生駒市教育大綱アクションプランの策定について

- ・平成30年度生駒市教育大綱アクションプランの策定について、辻中教育総務課長から説明
＜参照：議案書p3、別冊3＞
(質疑) なし

審議結果 【原案のとおり可決】

○日程第7 議案第2号 平成30年度生駒市学校教育の目標について

- ・平成30年度生駒市学校教育の目標について、吉川教育指導課長から説明
＜参照：議案書p4、別冊4、資料4、5＞
(質疑)

レイノルズ委員：失敗体験の部分はご検討いただいた結果、チャレンジ精神に反映するということだったが、やはりあえて「失敗」という言葉を入れたい。子どもは失敗を避ける傾向にあり、親としても失敗しないようにサポートしてしまう。しかし、学校という環境の中で、失敗を恐れないチャレンジ精神、失敗は許容できるという意識を身に付けてほしい。失敗の先に成功があると印象付けるためにも本目標に「失敗」という言葉を入れていただきたい。

寺田委員：レイノルズ委員に賛成である。冬季五輪のメダリストらへのインタビューの中でも、失敗したことが活かされたという方が多く、失敗体験の重要性を再確認した。表記についても、チャレンジ精神という言葉で失敗まで連想しないのではないか。幼稚園児でも「できないからしない」と、できないことや失敗を避ける傾向にあり、重要な課題であると思う。

吉川課長：資料5にもあるように、1ページ目の文言については、昨年、様々な意見をお出しいただき、かなりの時間を使い決定したかと思う。それゆえ、1ページ目は、極力変更すべきではないと考えている。2ページ目以降は1年たって様々な気づきがあると思うので、ご意見に沿って変更していきたい。しかし、1ページに「失敗」を入れるべきという意見が多いようなので、「失敗を恐れないチャレンジ精神」というような変更ならば可能であると思うが、いかがか。

中田教育長：個人的には、目標は前向きであるほうが良いと思う。失敗体験を前向きな言葉に表したのが「チャレンジ」であると捉えている。「チャレンジ」、「成功」、「たくましさ」等の言葉が並ぶ中、あえて「失敗」というマイナスな言葉を入れなくていいと思う。

峯島部長：4月に向けて学校への周知をするため、これ以上の継続審議は難しく、吉川課長の提案を軸に文言の調整を事務局で預からせていただきたい。文言の変更とともに、失敗の先に成功があると印象付けるため、「失敗を恐れないチャレンジ精神を育てます。」を1項目目とし、2項目目に「成功体験をとおして自尊感情を育みます。」にするように順序を変えるのが適切かと思うが、いかがか。

イノダ委員：それでいい。

中田教育長：その方向で、一部修正をお願いしたい。

審議結果 【一部修正の上、可決】

○日程第8 その他

- ・小学生1・2年生の英語教材について、吉川教育指導課長から説明
＜参照：その他資料1＞
(質疑) なし

・委員からの連絡・質問

浦林委員：第1回定例会の議事録について、内容は自分の発言内容として承認したが、生駒北小中学校と明記したということで、教育委員会から個別に学校を指名して干渉したと捉えられないか。生駒北小中学校の特色、恵まれた環境を鑑み、先進的に国際教育を進めるのがいいと思い、具体的な学校名を出させていただいたが、決して1校を指定して自分の意見を押し付けようという意図があったのではない。私自身、前回のお話の中で事情を理解したが、議事録を見た市民や学校関係者が、教育委員会からの圧力のようなものを感じてしまわないかと危惧している。

中田教育長：今後、私も含め、本会議録は公に出るものだという自覚を持って発言していくべきではある。しかし、意見を言って、議論していかなくては会

議として成立していかない。また、議事録に出てしまっても、単に意見であり、教育委員会として決定したことではないので、教育委員会からの圧力などは感じないだろう。そもそも、生駒北小中学校は、小中一貫校であることなど、明らかに特殊なので、政策面で議論する際にその固有名詞が出てしまうのは仕方ないことだと思う。

西井委員：先ほどの子ども達のチャレンジ精神のお話に関連して、3月3日に市町村対抗こども駅伝大会があるが、現在の応募状況等説明を受けたい。

西課長補佐：男女ともに20人程度応募があり、うち各6人がチームのメンバーとなる。また、そのうち各4人が本大会出場となり、その他の各2人がトライアルレースに出場する。昨年12人中11人が6年生だったので、今年はほぼ入れ替わった状態になる。今年は12人中9人が5年生である。

西井委員：以前私も本大会に携わっていたが、生駒市としての応募者が少ない。他市町村と比べて、チャレンジ精神が身についておらず、また、生駒市の子ども達は忙しすぎるのではないかと思う。駅伝に限らず、野球などもチーム数が減少していると伺っている。

神澤委員：私も地域スポーツの一環で子ども達に空手を教えているが、参加者は減少傾向にあり、試合を嫌がる子もおり、チャレンジを避ける傾向にあると感じる。これは20～30年前から言われていて、当初は高校生にチャレンジ精神がなくなったと言われていたが、近年では小学生にも当てはまるようになってきた。チャレンジが名ばかりになったり偏ってしまわないように、身も心も健康な子ども達を育てていきたい。

中田教育長：私も毎年市町村対抗こども駅伝大会の応援に行っているが、応募者の選手層が薄いのか、なかなか結果が出ない。

西井委員：生駒市の児童生徒数は県内で何位か。

中田教育長：児童生徒数の明確なデータはないが、人口については、奈良市、橿原市に次いで3位である。

西井委員：駅伝の結果としては、例年10位以内に入っているのか。

吉岡課長：入っている。近年は8位以内に入ることもある。

神澤委員：武道系だと、広島県や岡山県などは、地域の中でスポーツが根付いていて、親子で同じ競技をしているような地域はやはり強い。私は、空手教室を30年ほどしており、年々受講者数の減少を実感しているが、幼少期に習っていた方が保護者になって自らの子を連れてくることがあり、生駒市も地域にスポーツを根付かせる可能性を秘めていると感じる。親子や家族でするスポーツがあるということが、子ども達の意欲を高めていると思う。生駒市は親世代が休日などにスポーツクラブ等でスポーツをしている方が多いので、その点が一層充実していくことが期待される。

中田教育長：生駒市で盛んな子ども達のスポーツと言えば、サッカーなどである。

- 西井委員：ドッジボールも盛んである。生駒南小学校が全国大会に出場したこともある。
- 吉岡課長：ファミリースポーツの集いでも、ドッジボールは盛んにおこなわれている。
- 神澤委員：ママさんバレーなどもあると思うが、そこについてきた子ども達も何か学べるといいと思う。
- 吉岡課長：総合型地域スポーツクラブや指定管理者が様々な事業を行っている。また、市公共施設以外に、民間のスポーツクラブも増え、以前と比べるとスポーツする環境が整ってきている。また、市町村対抗こども駅伝大会の代表選考予選となる小学生長距離走記録会は、1～6年生対象に行っており、200人ほど参加しているが、駅伝大会に出場できる5・6年生で、大会参加希望者となると20人程度になってしまう。
- 西井委員：私は教員時代、このような校外の大会に子ども達が出場したときは、結果が分かたら極力話題にして褒めるようにしていた。しかし今の子ども達は褒めたから出場するというものでもないようだ。
- 神澤委員：そこにも失敗が関わってくると思う。試合をすれば片方が負ける。トーナメント方式なら1回戦で半分敗退する。優秀な子でもそれを恐れてチャレンジを避けてしまう。負けたら恥ずかしいと思ってしまう。失敗したとしても「大丈夫だ、よくやったね」と声を掛けて教えていくべきだ。
- 吉岡課長：駅伝選手らに関しては、11月に予選をし、中学校のグラウンド等を借りて10回以上練習をしてきた。3月3日は奈良テレビで放送されるので、是非ご覧いただきたい。
- 坪井委員：スポーツに関連して、3月の事業予定に浅香山部屋ちびっこ相撲体験会とあるが、相撲と生駒市の関係について伺いたい。
- 吉岡課長：浅香山部屋はくろんど荘を大阪場所の出部屋としており、大阪場所の間はくろんど荘に力士らが宿泊している。そのうち1日をお借りして、相撲体験をさせていただいている。対象は小学生である。
- 坪井委員：学童保育では、毎年総合公園で相撲大会を実施しており、大変白熱している。児童らも非常に頑張っており、とても感動した。自分の体一つで倒されるまで戦わねばならないということが、子ども達にとってもとてもいい経験になっていると思う。くろんど荘の相撲体験にも、より沢山の子ども達に参加してほしいと思う。
- 吉岡課長：三月場所の稽古に入っておられ、空いた時間でしていただいているもので、浅香山部屋さんのお邪魔になってはいけないことや、稽古場の広さも限られていることから、少人数でないといけない現状がある。また、相撲体験後にちゃんこ鍋を一緒に食べていただくことになっており、そちらも広さの関係があり、定員増加は厳しい。今年は広報等で募集をかけ

て、24人参加予定である。あくまでもスポーツがメインではなく、お相撲さんと触れ合っただくことがメインになる。なお、開催は去年からで、今年で2回目となる。

○閉会宣告

午前10時56分 閉会